

天声人語

大相撲名古屋場所は、モンゴル出身の横綱同士の対決を鶴竜が制して幕を閉じた。白鵬ともども全身を紅潮させてぶつかつた結びの一番は見応え十分、手に汗を握った▼残念だったのは大関、関脇、小結陣のふがいなさだ。とりわけ大関は4人全員が休場。昭和以降の相撲史で初めてという異常事態となつた。星取表に並ぶ「ややや」●●●の列には目を覆いたくなる▼床屋や居酒屋の談議で、政界はしばしば角界にたとえられる。「横綱自民党。もう大関も小結もいないんですから」。今月初め、与野党の党首らが出演したTBSの番組では、そんな発言が出た。きのう投開票された参院選では、自民が綱の貢祿を見せた▼とはいへ、その自民を率いる安倍晋三首相の街頭演説では、野党をなじる言ひ回しが耳についた。「大うそ」「無責任」「あの野党、あの時代」。政権与党は国会で予算委員会の開催をかたくに拒み、「老後2千万円」の報告書を受けとらないという拳に出た▼話を相撲に戻せば、全盛期の双葉山は常に泰然自若の構えを崩さなかつた。大鵬の持論は「横綱とは耐えること」。誤審騒動の際には「あんな相撲を取つた自分が悪い」と潔く受け入れた。横綱自民と重ね合わせようにも、残念ながら隔たりは大きい▼今回の選挙では、「多弱」野党の団子レースから、立憲が頭一つ抜け出した感がある。ただ、私見ながらその実力は小結あたりか。三役が横綱に挑み、鋭くぶつかる。そんな政界大相撲を見たい。

2019・7・22